

令和2年度

「就職氷河期世代を対象とした教職に関する

リカレント教育プログラム事業」

成果報告書

令和3年3月

北海道教育大学

はじめに

-現実問題対応力および現代的課題を重視したリカレント教育プログラムを通じた 即戦力ある教員の育成を目指して-

北海道は就職状況も厳しく、氷河期時代の就職困難者は極めて多かったと言われている。同様に教職就職も厳しく、教員免許は持ったが、教職に就く夢は諦めなければならなかった人も少なくない。北海道の就職が厳しかったがゆえに、北海道の地方を離れて東京等に就職先を探しに転居せざるを得なかった人も多いと言われている。そのため北海道の人口は、氷河期時代を終えて40万人ほど減少している。

このような中で、かつて教員免許を持ち、教職を目指しつつも就職できなかった人たちを、改めて教職に挑戦できるリカレント教育プログラム事業が創設されたのは貴重な機会であると言える。実際に北海道で応募された方も、数は少ないが、この機会をありがたく感じて頂いた。教職就職の希望者が減って教員採用試験の倍率が低下してきたと言われる現代であるからこそ、少しでもかつての教員志望者が本講座で再び教職にチャレンジして頂く契機になればありがたいと思う。

一方北海道は、中国・四国・九州を合わせた面積よりも広大で、潜在的な希望者は広域にわたっている。そのため北海道教育大学では、札幌市だけでなく、札幌・旭川・函館・釧路の4地域で対応できるようにした。これにより、各地からの問い合わせはあった。しかしそれでも極めて遠隔地であることと、またコロナ禍の中で応募しにくいという声も頂いているため、今後北海道の広域性に対応したオンライン・オンデマンドで個別に指導を進めていくことはこれからの教訓である。

北海道教育大学の講座内容としては、現場の実情に近い実践的対応方法や新たな課題を網羅的にとらえるとともに、北海道の過疎地・へき地の現状や北海道の育成指標など、北海道の教育活動に求められる内容も取り入れている。また「教育実践力向上講座」では、コンピュータで学校現場の実践的な問題集を解くCBT(Computer Based Testing)により、学級経営・学習指導・生徒指導・生活指導・特別支援・教育課程・教育法規・危機管理などの実践問題を1150問解くようにした。この実践問題は、北海道教育大学が独自に開発したもので、これを解くことで、基本的な実践課題に対して個々の受講者がイメージトレーニングをしながら実践的対応力を向上させることができる。

「基礎的な学習指導方法および学級経営方法に関する講義」では、小中学校の学習指導方法、基礎的な学級経営方法、特別支援とインクルーシブ教育、地域連携教育やチーム学校等の経営に関する講義、を開講し、近年の政策的な課題や現代的な課題に対応した講義を用意した。

これらの問題を学習した上で、面接希望者・個別指導希望者に対しては、個々の学習者の個別相談や質問に対応してきた。個別指導の段階では、一般的な資質・能力だけでなく、個々に適した対応方法を模索することができる。そしてそれを踏まえて次年度の段階では個々の教員採用試験に向けた模擬授業や教員採用試験対策を進める予定である。

このような実践的対応力を網羅したリカレント講座を受講した人が、少しでも教職に魅力を感じ、そして自信を持って教職に再チャレンジしていただくことが我々の願いである。本リカレント教育講座が教職の魅力を広げる機会になることを期待している。

令和3年3月

北海道教育大学副学長 玉井 康之

1. 本事業の実施概要

小規模校・へき地校教育等の、学校現場における教育課題が複雑化・多様化する北海道において、就職氷河期世代の小学校教諭及び中学校教諭志望者を対象とした、学校現場で正規職員等として勤務するのに必要な知識・技能を習得するリカレント教育プログラムを開設し、就職氷河期世代の就職支援に資すると共に、北海道全域における教職志望者の増加によって教育現場の活性化及び資質向上を図ることを目的に本事業を実施。

2. 受講者数等

・受講者数

12名（中途キャンセル 1名含む）

・受講者の希望学校職種

| 学校種 | 教科 | 希望人数 |
|-----|------|------|
| 小学校 | | 5名 |
| 中学校 | 社会 | 1名 |
| | 英語 | 2名 |
| | 音楽 | 1名 |
| | 美術 | 1名 |
| | 保健体育 | 2名 |
| | 家庭科 | 1名 |
| | 特別支援 | 3名 |
| 合計 | | 16名※ |

※複数の職種を希望する者がいるため、受講者数とは一致しない。

・応募資格要件該当項目

| 応募要件 | 人数 |
|----------------|-----|
| ① 教員採用試験の受験 | 2名 |
| ② 臨時的任用リストへの登録 | 3名 |
| ①及び②の両方 | 7名 |
| 合計 | 12名 |

3. 実施プログラム

(1) 通信型教員免許状更新講習 (30 時間)

最新の知識技能を身に付けることで、教員として必要な資質、能力の向上を目指し、オンライン動画配信サービスを利用した e ラーニング講習で実施。

【開設数・総時間数】

- 必修領域 1 講習 (1 講習 6 時間)
- 選択必修領域 1 講習 (1 講習 6 時間)
- 選択領域 3 講習 (1 講習 6 時間) の全 5 講習、計 30 時間

【開設時期】 令和 2 年 11 月 1 日～令和 2 年 11 月 30 日

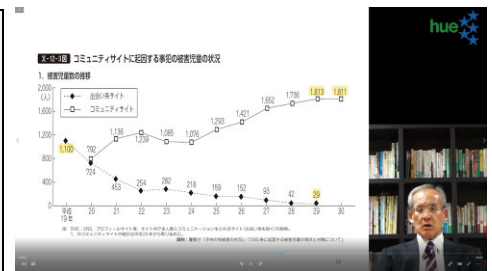
【講習名講習・担当者・講習内容】

< 必修領域 >

- ・講習名 「教育の今日的状況」
- ・担当者 北海道教育大学副学長 玉井 康之 6 時間
- ・講習内容

本講習では、基本的には図表を使って子供の実態を解説します。図表を使う理由は、保護者に子供の発達のゆがみを啓発し、子供に問題が起きる前に子供に働きかけてもらう上で、図表を用いることは有効だからです。

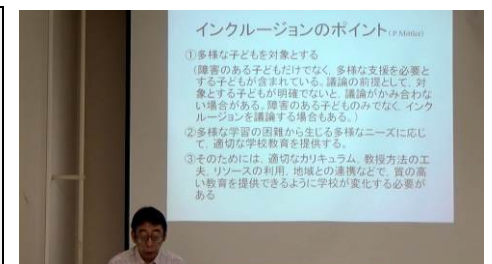
本講習では、脳の役割 (第 1 回) と保護者の発想 (第 2 回) をとらえた上で、(第 3 回) から (第 8 回) までは、あらゆる図表データを用いながら、子どもの発達・行動・学習・生活・人間関係のゆがみの実態をとらえます。なお本講習で提示する図表は、そのまま保護者会で活用してもかまいません。



< 選択必修領域 >

- ・講習名 「インクルーシブ教育を進める学校・家庭・地域の連携」
- ・担当者 北海道教育大学釧路校 特任教授 二宮 信一 6 時間
- ・講習内容

インクルーシブ教育の推進にあたって、インクルーシブ教育の基本的な理解、通常学級に在籍する発達障害 (LD、ADHD、高機能自閉症) のある子どもの理解と支援、周囲の子どもへの指導、保護者の支援、地域づくりという観点で論じる。



<選択領域>

- ・ 講習名 「テクノロジーと学びのユニバーサルデザイン(UDL)で主体的な学習者の育成を」
- ・ 担当者 北海道教育大学教職大学院准教授 川俣 智路 6時間
- ・ 講習内容

学習指導要領の改訂に伴い、主体的に学ぶ児童生徒の育成に注目が集まる中で、テクノロジーは有効なツールとなり得るものである。また、遠隔による学習に注目が集まるなかで、教育におけるテクノロジーの位置づけが急速に学校現場に問われている。本講座では、主体的な学習者を育成するための学習環境を作り出す理論的枠組みである学びのユニバーサルデザイン(UDL)の基本的な理解と実践、その枠組みの中でテクノロジーをどのように活用することが可能かについて検討する。



- ・ 講習名 「感情のコントロールーストレスマネジメント教育を中心にー」
- ・ 担当者 北海道教育大学教職大学院長 安川 禎亮 6時間
- ・ 講習内容

「ストレスがたまっていたからやった」。犯罪が起きるたびに、そんな報道を目にします。また元気そうに学校生活を送っている児童生徒の中にもリストカットや摂食障害などの問題を抱えている子がいます。

自分の「イライラやむかつき、不安」がどうして生じるのか、そういった反応をどうすれば人や自分を傷つけずに解消

・ 解決できるのか？学校教育の中でストレスについて学ぶ授業をもっと積極的に行う時代が来ています。



- ・ 講習名 「救急救命処置・自然災害と防災教育」
- ・ 担当者 北海道教育大学釧路校教授 酒井 多加志 2時間
- 北海道教育大学保健管理センター長 羽賀 将衛 2時間
- 北海道教育大学札幌校教授 佐々木 貴子 2時間

- ・ 講習内容

近年の自然災害を踏まえ、防災という視点から自分や家族、さらに地域の人々の生命や生活をどのように守っていくか、講義と実践を交えて学びます。

自然災害と防災教育では、学校現場において防災教育を指導できる教員の育成を目的とします。具体的には、学校、家庭、地域における自然災害と防災・減災について解説します。救急救命処置では、心肺蘇生法について、PowerPointを使った講義の後、基本的な手技の実演を提示します。



(2) 実践的教育講座 (118 時間)

実地研修と e ラーニングシステム「gacco ASP」を使用した e ラーニング講習

【開設時期】

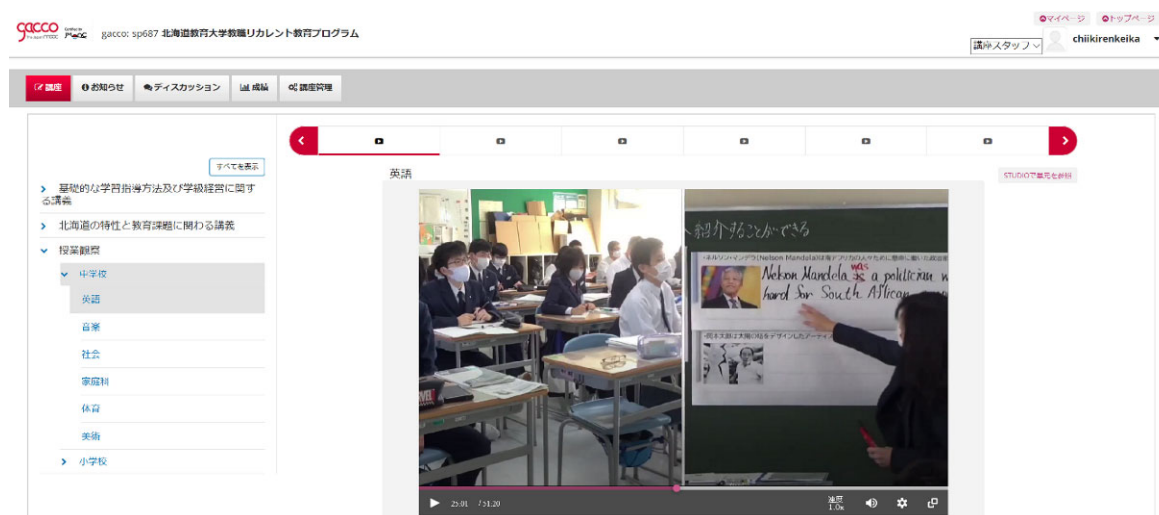
令和 2 年 10 月 16 日～令和 3 年 3 月 31 日

【講習内容】

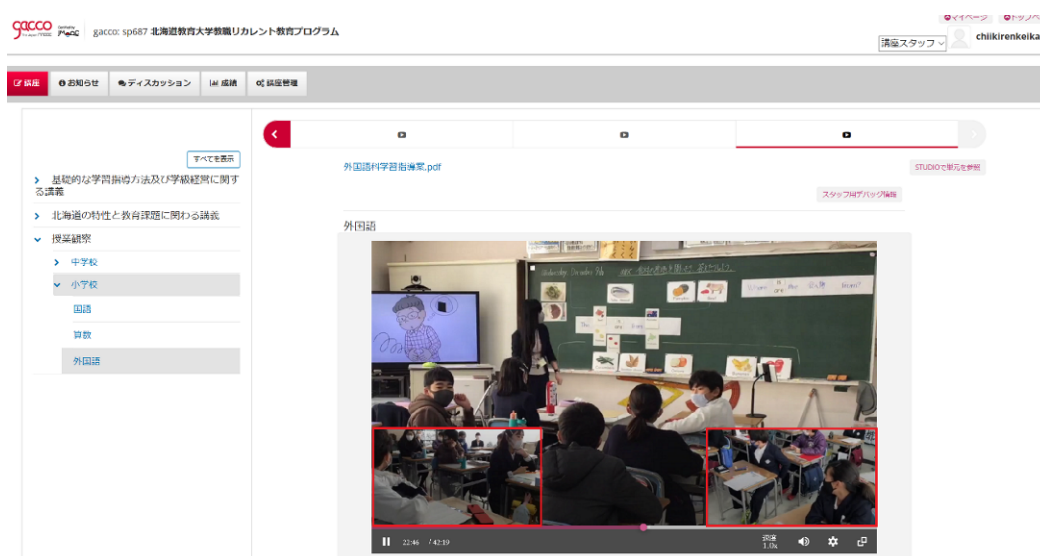
① 北海道教育大学附属小中学校での「授業観察」と「ふりかえり（省察）」 (20 時間)

受講者の希望校種・教科の授業を中心に、本学附属小中学校の授業を録画・編集し、e ラーニングシステム（以下「システム」という。）により受講者に配信。また、システム上のディスカッション機能を使い、受講者からの質問に対して本学教員が回答を行うふりかえり等を実施。

今回配信した授業は、中学校は英語、音楽、社会、家庭科、体育、美術。小学校は、国語、算数、外国語である。



【北海道教育大学附属釧路中学校における英語授業の配信画面】

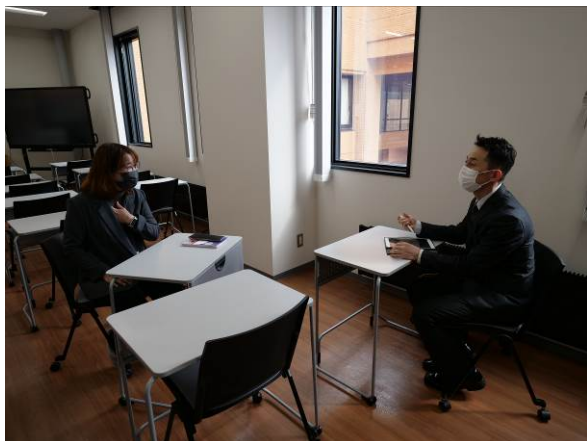


【北海道教育大学附属釧路小学校における外国語授業の配信画面】

② 模擬授業指導と相互交流（20 時間）

希望者に対し、元校長経験者である本学教員による模擬授業指導を実施。また、システム上のディスカッション機能を使い相互交流を実施。

希望者には個別に教育相談と面接を実施し、個々の問題意識に応じて丁寧な相談を実施した。



【札幌キャンパスでの実施風景】



【旭川キャンパスでの実施風景】

③ 教育実習前 CBT（eラーニング）講座（50 時間）

教育実践力向上問題集教育実習前 CBT（Computer Based Testing）を活用した eラーニング講習を実施。本講習は、【基礎編】【応用編】【発展編】の 3つの段階に別れ、それぞれ 1 教師論、2 学級経営、3 学習指導・授業改善、4 特別支援教育、5 生徒指導、6 危機管理、7 『学習指導要領』・教育課程、8 法規 の 8 分野で構成され、出題される問題は 1100 問を超える。

北海道教育大学 教育実習前 CBT システム

問題選択メニューに戻る

e-Learningを終了する

06-01 事前の危機管理 (0/1) 0% +

06-02 事故発生時の対応の基本 (1/8) 12.5% -

| No. | 設問 | 状態 |
|-----|--------------|----|
| 2 | 火災対策の避難訓練 | 未 |
| 3 | アナフィラキシーショック | 未 |
| 4 | 体育でのけが | 未 |
| 5 | 車吐（おうと）への対応 | 未 |
| 6 | 給食への異物混入 | 未 |
| 7 | 運動時の昏倒 | 済 |
| 8 | ALDの使用 | 未 |
| 9 | AEDの機能 | 未 |

06-03 不審者侵入への対応 (0/2) 0% +

06-06 自然災害への対応 (0/2) 0% +

ユーザーID: _____ 氏名: _____

06-02 事故発生時の対応の基本

No.7 運動時の昏倒

小学校高学年の体育の授業において、準備運動後、持久走を実施したところ、2分ほど走ったところで、ある児童が突然倒れました。教師が駆けつけたときには、児童は顔面蒼白で返事をすることもできない状態でした。この際の対応として、不適切なものを1つ選びなさい。

解答を選択しなさい

そのまま寝かせて安静にし、様子を見る。

他の職員や児童に保健室への連絡を指示するとともに救急車を要請する。

呼吸が確認できない場合は、心肺蘇生を行うとともに、AEDを使用する。

管理職に報告するとともに、保護者に連絡を取り、状況を説明する。

児童の意識の有無や呼吸、脈拍などを素早く確認する。

正解を確認する この問題をチェックする

【教育実習前 CBT（eラーニング）講座 出題画面】

×

06-02 事故発生時の対応の基本

No.7

運動時の昏倒

小学校高学年の体育の授業において、準備運動後、持久走を実施したところ、2分ほど走ったところで、ある児童が突然倒れました。教師が駆けつけたときには、児童は顔面蒼白で返事をするのもできない状態でした。この際の対応として、不適切なものを1つ選びなさい。

あなたの選択した選択肢：1 **正解**

- ① そのまま寝かせて安静にし、様子を見る。
- 2 他の職員や児童に保健室への連絡を指示するとともに救急車を要請する。
- 3 呼吸が確認できない場合は、心肺蘇生を行うとともに、AEDを使用する。
- 4 管理職に報告するとともに、保護者に連絡を取り、状況を説明する。
- 5 児童の意識の有無や呼吸、脈拍などを素早く確認する。

設問のケースは、「突然倒れ」「顔面蒼白で返事をするのもできない状態」であることから、重篤な状態である可能性がある。こうした場合は、速やかにAED等による応急手当を行うとともに、救急車を要請する（119番通報）など、迅速かつ適切な対応が必要である。心肺蘇生が必要かどうかを判断するには、脈拍の確認は必ずしも容易ではないため、非医療従事者では「通常の呼吸が確認できれば」心肺蘇生を開始することが勧められている。

閉じる

次の問題へ

← 前へ 7/19 次へ →

【教育実習前 CBT（eラーニング）講座 確認画面】

④ 基礎的な学習指導方法及び学級経営方法に関する（eラーニング）講義（20 時間）

(1) 基礎的な学習指導方法に関する講義（6 時間）

講習担当者 北海道教育大学旭川校 学校臨床准教授 山中 譲司

・講習内容

新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導においては、新しい時代に必要となる資質・能力の育成と学習評価の充実が求められる。主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善や、各教科固有の見方・考え方、カリキュラム・マネジメント、プログラミング教育、全国学力・学習状況調査結果を生かした授業改善などの視点から、学習指導の在り方について理解を深めることを目的とする。



【基礎的な学習指導方法に関する講義画面】

(2) 基礎的な学級経営方法に関する講義（6 時間）

講習担当者 北海道教育大学副学長 玉井 康之

・講習内容

本講習は、“学級経営の基盤を創る 5つの観点と 15の方策”をとらえることを目的としています。本講習では、拙著『学級経営の基盤を創る 5つの観点と 15の方策』（学事出版社、2020 年）を基にして要点を解説します。

学級経営は、集団としての学級がより良い学習集団・生活集団に発展していくための教師の組織的・計画的な教育活動です。この学級経営の直接目に見えない基盤を創ることが、円滑に学級経営が展開する条件となります。

学級経営の基盤を創る 5つの観点は、Ⅰ【学級崩壊の兆候と要因を取り除く】、Ⅱ【明るい学級環境の雰囲気を作る】、Ⅲ【潜在的な子どもの心をとらえる】、Ⅳ【生活集団活動を通じて社会関係力を高める】、Ⅴ【教師の協同的な関係力を見せる】です。この 5

つの観点を貫く共通の課題は、子供の人間関係づくりです。この5つの観点を踏まえて15の主要な方策をとらえます。学級経営は即席的には作れませんが、学級経営の基盤を創ることで、長期的により楽しい学級を創ることができます。



【基礎的な学級経営方法に関する講義画面】

(3) 特別支援とインクルーシブに関する講義 (4時間)

講習担当者 北海道教育大学釧路校 特任教授 二宮 信一

・講習内容

インクルーシブ教育が生まれてきた歴史的背景、インクルーシブ教育が願っていること、そして、日本の教育にどのように移していけるか。その実践の方法について、一緒に考えていく。次の4つの章から構成される。1. 特別支援教育とインクルーシブ教育 2. 日本におけるインクルーシブ教育の展開 3. 地域型インクルーシブ教育 4. インクルーシブ教育の推進には、インクルーシブな指導者が必要となる



【特別支援とインクルーシブに関する講義画面】

(4) 地域連携教育やチーム学校等の経営に関する講義 (4 時間)

講習担当者 北海道教育大学旭川校 特任教授 北村 善春

・講習内容

これからの時代に求められる学校と地域との連携の在り方について、1 基本的な考え方 2 コミュニティ・スクール(学校運営協議会) 3 地域学校協働活動 4 地域学校協働本部 5 学校支援地域本部等から地域学校協働本部への発展 6 地域と学校の連携・協働 7 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進 8 チームとしての学校 9 課題 の9つテーマで取り組んでいく。併せて、北海道における学校と地域との連携に関するこれまでの取組事例を紹介する。

【地域連携教育やチーム学校等の経営に関する講義画面】

⑤ 北海道の特性と教育課題に関わる（eラーニング）講義（8時間）

(1) 北海道における教員育成指標と重点課題に関する講義(4時間)

講習担当者 北海道教育大学旭川校 特任教授 北村 善春

・講習内容

1. これからの時代の学校教育の変化と教員の専門性、2. 教員の資質能力の向上を巡る教育施策や社会からの要請、3. 北海道の教育に関する重点課題の3章から構成し、「GIGAスクール構想と学校教育」や「学校教育行政における教員の資質能力向上政策の意義」また、「北海道の学校教育に関する重点課題」等について、解説する。

gacco: sp687 北海道教育大学教職リカレント教育プログラム

マイページ トップページ
講座スタッフ chikirenkelka

講座 お知らせ ディスカッション 成績 講座管理

すべてを表示

- 基礎的な学習指導方法及び学級経営に関する講義
- 北海道の特性と教育課題に関わる講義
 - 北海道における教員育成指標と重点課題に関する講義
 - 第1回 これからの時代の学校教育の変化と教員の専門性
 - 第2回 一般員の資質能力の向上を巡る教育施策や社会からの要請
 - 第3回 北海道の教育に関する重点課題
 - 北海道の過疎地域に対応したへき地・複式・小規模校教育
- 授業観察

—教員の資質能力の向上を巡る教育施策や社会からの要請—

4 北海道における「求める教員像」

「北海道における『求める教員像』」は、北海道教育委員会が採用に当たり、教員としての基本的な姿を示すだけでなく、大学での教員養成や、現職教員研修などの基礎となる姿です。

例えば、北海道の教員を志す学生にとっては学修を進める上での方向性を示すもの、北海道の教育公務員となった教員にとっては研修や実践を深める上での次なる目標、保護者や地域にとっては北海道の教員の基本的な姿を知っていただき信頼を確かなものにしていただくための姿です。

もともと、北海道として画一的な教員像を求めているわけではなく、生涯にわたり資質能力の向上を図るという前提に立って、北海道の教員としての基本的な姿を示したものであり、「北海道における『求める教員像』」を基礎としながら、個性豊かで人間味にあふれる教員が求められることは言うまでもありません。

なお、北海道では、「求める教員像」の検討に当たり、学校現場の現状や地域の実情など地域特性等を踏まえる必要があると考え、道内の市町村教育委員会、PTA（保護者）、園長会・校長会を対象とした全道的なアンケート調査（詳細については、資料編「資料3」を参照）を実施しました。

北海道教育委員会Webページより引用

1:01:17 / 1:29:10 音量 1.0x

スタッフ用サブバッグ情報

【北海道における教員育成指標と重点課題に関する講義】

(2) 北海道の過疎地域に対応したへき地・複式・小規模校教育(4時間)

講習担当者 北海道教育大学 へき地・小規模校教育研究センター
副センター長 川前 あゆみ

・講習内容

少人数教育のパラダイム転換が求められる背景について、Ⅰ 複式・少人数指導の実践と学習者中心の学び、Ⅱ 少人数教育による個別最適化された学びに向けての2章から解説。
へき地・小規模校の教育指導方法（異学年指導・一斉指導と個別指導・体験的活動・子ども主体的な学習）が都市・大規模校にも応用できる可能性を確認するとともに、どんな地域でも、どんな学校規模・学級規模でも、そこで暮らす子供たちにとって、より豊かな学びになるような学習者中心の学びを、どう教師や学校が考えていけばよいのか、また、誰ひとり取り残すことのない、個別最適化された学びに向け、皆さんと共に考えて行く。

The screenshot shows a video player interface for a lecture. The slide content is as follows:

1. 少人数教育のパラダイム転換

- ・パラダイム(支配的な物の見方)の転換
⇒へき地小規模校教育の積極面と可能性
- ・へき地教育⇒都市部に比して遅れたイメージ
⇒へき地教育の特性をどう活かせるか
- ・積極的な側面を意識的にとらえる必要性
⇒子どもの生活環境の変化と特性

The interface includes a navigation menu on the left, a video player with a progress bar at 12:49 / 45:33, and a small video feed of the presenter in the bottom right corner.

【北海道の過疎地域に対応したへき地・複式・小規模校教育】

講座 お知らせ ディスカッション 成績 講座管理

すべてを表示

- 基礎的な学習指導方法及び学級経営に関する講義
- 北海道の特性と教育課題に関わる講義
 - 北海道における教育育成指標と重点課題に関する講義
 - 北海道の過疎地域に対応したへき地・複式・小規模校教育
 - 北海道の過疎地域に対応したへき地・複式・小規模校教育
 - 複式学級における学習指導 高学年の学年別指導【社会】
- 授業観察

複式学級における学習指導 高学年の学年別指導【社会】 STUDIO 〇 研究本会 編集

高学年【社会】

5年生 6年生

直接指導 間接指導

課題把握 前時の習熟・応用

10:40 / 54:51 再生 1.0x

スタッフ田中デバック編集

【複式学級における学習指導 高学年の学年別指導【社会】】

3. 本事業の取組における成果

今回、就職氷河期世代の教員免許保有者に焦点を当て、本学の有する教育プログラム、ノウハウを活用し、学校現場で正規職員等として勤務するのに必要な知識・技能を習得するリカレント教育プログラムを開設することで、就職氷河期世代の就職支援を進めた。さらに、北海道全域における教職志望者の増加によって教育現場の活性化及び資質向上を図ることができた。

リカレント教育講座では、他大学では受けられない教職実践力向上のCBT(Computer Based Testing)の講座を実施し、1150 問題の実践的問題を解答しながら、自分の実践イメージを広げる“イメージトレーニング”を実施した。“イメージトレーニング”は、個々の性格や能力に応じて実践のイメージを広げられる方法である。これにより、受講生は講義を聴くだけでなく、自分で実践的な対応方法の一つ一つイメージしながら、実践力を身につけることができています。

実践的対応は様々な現実の状況に応じて臨機応変に対応しなければならないが、その対応方法は、単に経験主義的で無原則であってはならない。一方瞬時の対応が求められるために、行動様式の中に会得できるようにしておかなければならない。そのためある程度普遍的な実践的対応方法の原則を選択肢に入れておき、その対応方法の原則の一つ一つの状況に応じてイメージしながら学ぶことが重要になる。北海道教育大学の1150 問題のCBT 問題は実践的な課題に対して、ある程度普遍的な内容を選択肢として網羅しており、それらの対応方法を踏まえて「自分ならばどのような対応方法をとるか」をとらえることで、実践力が高まっていく。

このCBT と併行して、基礎的な学習指導方法や学級経営指導方法の講義を受講しているために、問題と解説、実践理論と実践方法を併行して学ぶことができる。したがって、経験主義になることもなく、理論的な知識だけで終始することもなく、理論と実践の往還を進めることができる。確実な実践力は理論と実践の往還的な部分を繰り返しながら発展していくものであり、この両方を講習の中で踏まえることができることが、今回の受講生の成長を促す条件となっている。

この様な理論と実践の往還を進めながら、網羅的に実践状況と対応方法を捉えた本リカレント講座では、受講生自身が基本的で普遍的な実践課題と方法をとらえることができ、即戦力を高められると捉えている。受講生からは、「現場の対応方法として様々な方法があることが分かった。」「実践問題を通じて、自分がどのような対応をするかのイメージを広げやすかった。」という感想を頂いている。本リカレント講座の受講生が、自らの実践的課題を克服しながら学校現場で実践的に輝くことを期待したい。